

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成21年7月16日 (2009.7.16)

【公開番号】特開2009-91365(P2009-91365A)

【公開日】平成21年4月30日 (2009.4.30)

【年通号数】公開・登録公報2009-017

【出願番号】特願2008-298412(P2008-298412)

【国際特許分類】

A 6 1 K 33/00 (2006.01)

A 6 1 K 33/10 (2006.01)

A 6 1 P 17/02 (2006.01)

A 6 1 P 17/10 (2006.01)

A 6 1 P 17/00 (2006.01)

A 6 1 K 47/36 (2006.01)

A 6 1 K 47/12 (2006.01)

A 6 1 K 9/16 (2006.01)

A 6 1 K 8/19 (2006.01)

A 6 1 K 8/73 (2006.01)

A 6 1 K 8/36 (2006.01)

A 6 1 Q 19/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 33/00

A 6 1 K 33/10

A 6 1 P 17/02

A 6 1 P 17/10

A 6 1 P 17/00

A 6 1 K 47/36

A 6 1 K 47/12

A 6 1 K 9/16

A 6 1 K 8/19

A 6 1 K 8/73

A 6 1 K 8/36

A 6 1 Q 19/00

【手続補正書】

【提出日】平成21年6月2日 (2009.6.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

水溶性酸、増粘剤として加工澱粉、デキストリン、馬鈴薯澱粉、トウモロコシ澱粉、キサンタンガム及びヒドロキシプロピルセルロースから選択される 1 種又は 2 種以上、この増粘剤とは別の物質である水溶性分散剤として乳糖、白糖、D - マンニトール、果糖、蔗糖、及び尿素から選択される 1 種又は 2 種以上を必須成分とし、前記増粘剤が前記水溶性酸及び前記水溶性分散剤と混合されている粒状物と、

炭酸塩、水、増粘剤を必須成分とし、使用時に前記粒状物と混合する粘性組成物とを含

み、

前記粒状物全体に対して前記水溶性酸が 2 ～ 50 重量%、前記増粘剤が 10 ～ 40 重量%、前記水溶性分散剤が 30 ～ 85 重量%であり、  
前記粘性組成物全体に対して炭酸塩が 0.1 ～ 10 重量%、水が 70 ～ 97.5 重量%、  
前記粘性組成物の増粘剤が 0.5 ～ 20 重量%であり、  
前記粒状物と粘性組成物との重量比が 1 : 10 ～ 40であることを特徴とする二酸化炭素外用剤調製用組成物。

【請求項 2】

粘性組成物の増粘剤がアルギン酸ナトリウム、アルギン酸プロピレングリコールエステル、カルボキシメチルセルロースナトリウム、カルボキシメチルスターチナトリウム及びキサンタンガムから選択される 1 種又は 2 種以上である、請求項 1 に記載の二酸化炭素外用剤調製用組成物。

【請求項 3】

水溶性酸が、シュウ酸、マロン酸、コハク酸、グルタル酸、アジピン酸、ピメリン酸、フマル酸、マレイン酸、フタル酸、イソフタル酸、テレフタル酸、グルタミン酸、アスパラギン酸、グリコール酸、リンゴ酸、酒石酸、イタ酒石酸、クエン酸、イソクエン酸、乳酸、ヒドロキシアクリル酸、 $\alpha$ -オキシ酪酸、グリセリン酸、タルトロン酸、サリチル酸、没食子酸、トロパ酸、アスコルビン酸、グルコン酸、リン酸、リン酸二水素カリウム、リン酸二水素ナトリウム、亜硫酸ナトリウム、亜硫酸カリウム、ピロ亜硫酸ナトリウム、ピロ亜硫酸カリウム、酸性ヘキサメタリン酸ナトリウム、酸性ヘキサメタリン酸カリウム、酸性ピロリン酸ナトリウム、酸性ピロリン酸カリウム、スルファミン酸から選ばれる 1 種又は 2 種以上である請求項 1に記載の二酸化炭素外用剤調製用組成物。

【請求項 4】

粒状物が、多孔性顆粒である請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の二酸化炭素外用剤調製用組成物。